

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/26】

## 男子1回戦

岡山県選抜 13

6	—	1
3	—	1
3	—	1
1	—	2

5 山形県選抜

審判：

中 哲朗  
橋本 寛一

岡山県選抜	19	SH数	16	山形県選抜
	12	速攻数	3	
	10	ST・SB	5	
	7	SH・P誘発アシスト	3	
	50%	GK阻止率	7%	
	7	EX反則数	6	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

### 【試合の流れ】

ここ数回の大会で上位進出できていない開催県岡山の復活が期待される初戦。

#### 1P

岡山は攻防の切り替え時のタイミングのいい飛び出し速攻で主導権を握り、原が積極的に前に出るプレーで連続得点。いきなり6点を奪取する幸先のいいスタートとなった。対する山形は、泳いでくる左利きの原へのディフェンス対応ができず(右利き選手のマーク位置)、簡単にディフェンスの裏を突かれてしまい、完全に岡山ペースに持ち込まれてしまった。岡山は山形のゴール前を封じ、シュートも遠目に限定した形のゾーンを敷き、その守備からの速攻で次々にチャンスを作ったことで勢いに乗った。

#### 2P

岡山は余裕のある試合運びからメンバー交代したが、今一つリズムがかみ合わず、センター位置での攻撃中の反則から山形に攻め込まれる展開が続いた。それでも岡山GK小高のセーブなどから原のゴール前で勝負で競り勝って連続得点し、山形を突き放した。山形はピリオド終了間近に岡山守備陣の隙をつく6mシュートを高橋が放って2点目をあげ、前半を岡山9-2山形で折り返した。

#### 3P

このピリオドも岡山が優勢。原が前半の2つのピリオドで前に入ってからペナルティ誘発を奪取したことから、そうしたゴール前でのプレーを学習したことをさらに活かす展開で岡山・荒木も同様のプレーで続き、10点を決めて完全に余裕の展開となった。山形はなかなかいい形での攻撃に至らず、苦しい展開が続くが、ピリオド終盤に退水攻撃を松田が決めて3点目。しかしその直後の再開でのマークミスから岡山・原にダメ押しを決められてしまったのが痛かった。

#### 4P

大差が開いた岡山は中学生メンバーに交代させる余裕の試合運び。中学生はチャンスは作るが、最後の詰めとなるパスに正確性や判断ミスが出てしまい、山形側の攻撃を受ける場面が多くなった。やや不要とも思えるプレーで退水を奪われて失点するなど、中学生世代の課題が見えた形。最終的には岡山13-5山形という結果となったが、岡山は徐々に上位進出の期待を抱かせる水球を披露した一戦となった。

### 【プレー分析から】

試合開始から岡山が守備からの速攻を繰り返す場面でゲームを支配した。速攻本数も岡山12-3山形と、岡山が圧倒。逆に言えば、山形はそうした岡山側の攻撃パターンを踏まえた攻撃方法への工夫が不足していたことを示す結果となった。岡山は速攻を繰り返してから、飛び出した選手自身がゴール前まで持ち込んで勝負するスタイルを貫いた形だが、そうした展開にならないような攻撃リズムを山形が取れていれば試合の流れは変わっていたかもしれない。

山形はほとんどが全員攻撃で敵陣に入っていたことで、自陣側に大きなスペースが残り、そこを岡山側に狙われてしまった。

GKセーブ率は上位進出の大きな要素となるが、岡山側の守備は功を奏し、最低限のセーブ率50%レベルで乗り切ったことで先が楽しみな状況だろう。